

評価者	都市整備部長	樋田 浩一
-----	--------	-------

◎ 評価対象分野・施策の方針・目標とすべきまちの姿

総合計画上の位置付け	分野	下水道・河川	施策の方針	下水道資源の有効利用
目標とすべきまちの姿	終末処理場で発生した処理水や汚泥の資源化が効率的に実施されており、より効率的な下水道事業を進めています。 また、終末処理場等の建物上部の未活用スペースは市民により多目的に利用されており福利厚生にも役立てられています。			

1 市民意識調査結果

(1) 認知度(回答者全体に占める割合)

取組を知らない・わからないと答えた人の割合	令和元年度(2019年度)	36.3%	平成30年度(2018年度)	45.6%	平成29年度(2017年度)	32.2%
	平成28年度(2016年度)	30.0%	平成27年度(2015年度)	33.6%		

(2) 妥当性

**令和元年度(2019年度)**

お金の使い方

	使いすぎ	ちょうどよい	足りない
必要以上の効果	0.0%	2.9%	0.5%
ちょうどよい	0.0%	41.8%	1.4%
効果不十分	1.0%	1.3%	8.3%

仕  
事  
の  
効  
果

全体における位置(効果とお金の両方が「ちょうどよい」の割合)

**平成30年度(2018年度)**

お金の使い方

	使いすぎ	ちょうどよい	足りない
必要以上の効果	0.3%	1.3%	0.0%
ちょうどよい	0.2%	30.1%	1.5%
効果不十分	1.0%	2.5%	10.9%

仕  
事  
の  
効  
果

全体における位置(効果とお金の両方が「ちょうどよい」の割合)

**平成29年度(2017年度)**

お金の使い方

	使いすぎ	ちょうどよい	足りない
必要以上の効果	0.5%	0.2%	0.2%
ちょうどよい	0.4%	44.6%	1.9%
効果不十分	1.8%	3.5%	10.0%

仕  
事  
の  
効  
果

全体における位置(効果とお金の両方が「ちょうどよい」の割合)

**平成28年度(2016年度)**

お金の使い方

	使いすぎ	ちょうどよい	足りない
必要以上の効果	0.5%	1.2%	0.7%
ちょうどよい	0.4%	44.9%	1.6%
効果不十分	1.2%	2.0%	12.3%

仕  
事  
の  
効  
果

全体における位置(効果とお金の両方が「ちょうどよい」の割合)

**平成27年度(2015年度)**

お金の使い方

	使いすぎ	ちょうどよい	足りない
必要以上の効果	0.3%	1.1%	0.4%
ちょうどよい	0.4%	42.6%	1.1%
効果不十分	1.1%	2.7%	10.3%

仕  
事  
の  
効  
果

全体における位置(効果とお金の両方が「ちょうどよい」の割合)

(3) 今後の進め方

	もっと力を入れるべき	現状のままで良い	力を入れなくて良い	無回答
令和元年度(2019年度)	15.8%	41.0%	0.8%	42.4%
平成30年度(2018年度)	16.7%	29.9%	1.5%	51.9%
平成29年度(2017年度)	18.5%	42.9%	1.9%	36.7%
平成28年度(2016年度)	18.3%	45.5%	1.6%	34.6%
平成27年度(2015年度)	17.3%	41.9%	1.7%	39.1%

2 内部評価

(1) 令和元年度(2019年度)の目標

- ①下水道資源有効活用について社会情勢の変化や技術革新の状況、国の動向等を注視していく。(下水道資源有効活用について検討を行う。(小事業なし))  
 ②山崎下水道終末処理場の西側建物上部の利用用途について、地元自治町内会等と協議を行う。(小事業なし)

(2) 目標とすべきまちの姿と令和元年度(2019年度)の目標との関連性

- ①下水道資源を有効活用により、効率的な下水道事業の運営に資することになる。(小事業なし)  
 ②建物上部の有効利用により、市民の健康と福祉の増進に資することになる。(小事業なし)

(3) 事業評価結果一覧表(網掛けは重点事業)

評価対象事業名		決算値(千円)		職員数(人)		法定受託事務	今後の方向性	
整理番号	事業名	令和元年度(2019年度)	平成30年度(2018年度)	令和元年度(2019年度)	平成30年度(2018年度)		事業内容	予算規模

(4) 主な実施内容

- 【主な実施内容】**  
 ①汚泥焼却灰について建築用資材として有効利用を図った。また、中水の利用についても、引続き武道館のトイレ用水や場内の機械洗浄用水として利用した。(小事業なし)  
 ②山崎下水道終末処理場の西側建物上部の利用用途について、地元自治町内会等と協議を行った。(小事業なし)
- 【実施できなかった事業とその理由等】**

(5) 令和元年度(2019年度)の取組の評価

効率性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、適切な事業費・人件費で執行できていたか	■ 適切 □ 要改善
妥当性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、妥当(適切)な取組であったか	■ 適切 □ 要改善
有効性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、適切な成果が得られていたか	■ 適切 □ 要改善
公平性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、受益機会が偏っていない(適切な)取組であったか	■ 適切 □ 要改善

<上記評価の理由、改善を要する点の具体的内容等>

- ①汚泥焼却灰を建築資材として利用することで処分費の低減に努めた。(小事業なし)  
 ②山崎下水道終末処理場の西側建物上部の利用について、地元自治町内会等の意向を確認できた。(小事業なし)

3 主な事業における指標(目標ごとに1つ設定)

整理番号	事業名		単位					指標の傾向	備考
	当該指標を設定した理由	年次	H26(2014)	H27(2015)	H28(2016)	H29(2017)	H30(2018)	R01(2019)	
		目標値							
		実績値							
		達成率							